

第一印象を決める言葉

二階に上がっていくと、すぐに目につくものがありますそれは、環境委員会が取り組んでいる「掃除キャンペーン」の取り組み状況を表した掲示物です。(写真)

結果の中身もさることながら、すぐに目を引くのが、それを記録した生徒の筆跡です。それは、多くの人の目に触れるものとしては理想的な筆跡であることがすばらしいと思います。一画一画丁寧に書かれたその筆跡から、活動にもひたむきに取り組んでいる様子が伝わってくるようです。

今年度、学校生活において大切にしたいこととして、私は言語環境を挙げました。互いのことをわかり合うために、言葉はなくてはならないものです。私たちは当たり前のように言葉を使っています。それがあるから関係が生まれ、物事がスムーズに進みます。人間は考える時に、必ず言語を通して行っています。言葉がなければ、人間の賢さもないと言えるでしょう。しかし、私はもつと単純に考えています。人間関係がどうのこののか、賢さがどうのこののこのというの、日本語に限らない言語の果たす役割りであって、もっと前段階で言葉には大切な役割があると思っています。

それが、第一印象を決めるということです。私は三十年以上教師をやってきて、数えきれないくらいのご案内用紙を目にしてきました。正直言って、その時に、どんな大きさの文字が、どれくらいの濃さで、どのように書かれているかで採点するときのモチベーションが変わっていました。

つまり、頑張りが真っ先に伝わってこないのです。今ではクチコミということでおいしい店は世間に知られるようになりましたが、看板ボロボロ、見た目にみすばらしい外観の店には、だれも入ろうとしませんよね。それと同じです。がんばっていることが一見してわかるもの、それが言語だと私は思います。「こんな乱雑な書き方で振り返りを書いているようでは、活動の中身も、取り組んでいる生徒たちの意識も、大したことないな。」正直私はそう思います。しかし、これは私だけではないと思いますよ。

三年生になれば、接する人物が必ずしも自分のことを積極的ににわかれろうとする人たちばかりではなくなってきました。それは進路において言えることです。「○○に入学したい」と思っても、あなたによさや素晴らしさを○○の人々は知りません。あなたの第一印象は、あなたより先に届く書類によって決まることとでしょう。そういう意味でも、言葉を今の内から大切に扱いたいものです。ね。

